

ツール 41：ビジョニング

このツールの目的

参加者共通のゴールや希望、意欲、創造的な発想、情熱を生み出す。

このツールを使うタイミング

共創のフェーズで、グループとしてのアウトプットを生み出すことに重要性がシフトしたタイミング。

ビジョニングとは

ビジョニングは、ステークホルダー協働で、未来に対する共通のビジョンを策定するツールだ。ビジョニングを行うことで、次の間に答えることができるようになる：

「今から5～10年後、このMSPがどのようなものになってほしいのか？」

共通のゴール策定に参加者を関与させることで、ビジョニングは、参加者に対し、物事をコントロールしているという感覚とモチベーションを与えてくれ、本質的変化が起こる可能性を生み出す。このツールは、高い結果を挙げられる強力なグループの基本的特徴である一体感や方向性の共有を醸成するものだ。

問題を解決しようとする際に、グループが、些末な専門的事項や政治的問題に囚われてしまうことがあり、場合によっては、問題をいかに定義するかについてすら合意できないこともある。問題の解決は有用ではあるものの、真の意味での本質的変化につながることはほとんどない。

問題とは、避けるべきネガティブな何かだが、ビジョニングは、前進するための何かを示すことで、ポジティブな物の見方を提供してくれる。このツールは、メンバーが俯瞰的に物事を見られるようにしてくれ、ビジョンに向かっていく際に立ち現れる問題を解決するための創造的な思考や情熱を生んでくれる。

優れたビジョンとは、現実的であると同時に野心的なものだ。あまりにも遠い将来を見据えたビジョニングには、十分なモチベーションを生み出せないという難点がある。現時点からあまりにも近い将来についてのビジョニングには、これまでの計画に加えて別の計画ができただけのように見えるという難点がある。



出典：<http://www.sswm.info/content/visioning>

ビジョニングのグループワークのファシリテーション法

「今から5～10年後、このMSPがどのようなものになってほしいのか？」という問への答となるビジョンをグループで策定する。

ステップ1：コンテキスト（文脈）

- ステークホルダー全員によって果たされた進捗を取材するため、あなたの組織にドキュメンタリーチームが来ていると想像してください。
- ドキュメンタリーチームに何を見せますか？
- どのような活動をドキュメンタリーチームは見るようになるでしょう？
- これまでに何が達成されていますか？
- 外部の組織はどのような協力をしていますか？
- どのような組織や考え方、パラダイムが変化しましたか？
- 人々の生活はどうなっていますか？

ステップ2：ブレインストーミング

- 個人ワークで、あなたが思うビジョンの構成要素、将来どうなるかについての具体的な内容、こうなっほしいという願いを紙に列記してください。この間は、周りの人と話さないようにしてください。
- ペアになって、ビジョンについての最も重要な具体的構成要素を5つ合意し、そのうち最も重要な2つに印を付けてください。その後、全体ミーティングであなた方のアイデアを紹介してください。

ステップ3：アイデアのグルーピング

- 意図や方向性が同じで、グルーピングできるアイデアはどれでしょうか？

ステップ4：ビジョン要素の命名

- グルーピングされたアイデアのそれぞれに短い名前を付けてください。これがビジョンを形成します。
- これらのアイデアの共通の方向性や重要な要素とは？
- ビジョンのこの要素をどう名付ければよいでしょうか？

ステップ5：内省

- これらの要素は相互にどう関連しているのでしょうか？
- これらの要素すべてが重要でしょうか？それとも何らかの階層構造があるでしょうか？
- 1つのセンテンスのビジョンが思い付きますか？それともビジョンの各要素を今のままの形で維持した方がよいでしょうか？

さらに知りたい方は：

ビジョニングのアクティビティやガイドライン、ベストプラクティスについて：アクセスは[こちら](#)から

DFID (Editor) (2003): *Tools for Development. A handbook for those engaged in development activity.*

London: Department for International Development. [URL](#), [pdf](#).

Social Transformation Project. Visioning Toolkit アクセスは[こちら](#)から